

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/09/02

材料豊富で神経質な相場に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➔	QE縮小・シリアリスクなどを軸に 予想レンジ: 94.00 ~ 102.00 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➔	「外部要因」次第か 予想レンジ: 90.00 ~ 97.00 円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	97.85円	99.93円	95.80円	98.18円



①	1日、米新規失業保険申請件数が32.6万件(予想:34.5万件)、米7月ISM製造業景況指数が55.4と(同:52.0)と双方が市場予想よりも良好な結果になったことを受け、ドル/円は99.57円まで上昇した。
②	2日、米7月雇用統計への期待から発表直前にドル買いが優勢となり、ドル/円は99.93円まで上昇した。しかし、発表された米雇用統計は、失業率こそ7.4%と市場予想(7.5%)より強い結果となるも、非農業部門雇用者数が16.2万人増(予想:18.5万人増)と弱く、前回・前々回が下方修正(5月:19.5万人増→17.6万人増、6月:19.5万人増→18.8万人増)され、労働参加率は63.4%と前月比0.1%低下した。これを受け、ドル/円は反動安となり、98.66円まで値を下げた。
③	8日、日銀が金融政策の据え置きを発表し、発表直後のドル/円の反応は限定的だったものの、日経平均株価が引けにかけて急落するとドル/円は下落。さらに、NY市場でも米長期金利の低下などを重石に値を下げ、95.80円の安値をつけた。
④	13日、前日のNY市場中に日経新聞が「安倍首相が法人税の実効税率引き下げを検討するよう関係府省に指示」と報じたことが日本の株高期待を呼び、円安が進行。日経平均株価が高寄りすると円売りが加速した。欧米株高も追い風となり、ドル/円は98.34円まで上昇。米7月小売売上高が前月比+0.2%と市場予想(+0.3%)を下回ったものの、自動車を除くと+0.5%と予想(+0.4%)を上回った点も好感された。
⑤	15日、米長期金利の上昇や、米新規失業保険申請件数が32.0万件と市場予想(33.5万件)よりも強い結果になったことを受けてドル/円は98.65円まで上昇。しかし米8月フィラデルフィア連銀景況指数が9.3と市場予想(15.0)を大きく下回ると、NY市場の引けにかけて97.07円まで値を下げた。
⑥	22日、高寄りした日経平均株価が下げ幅を圧縮した他、中国8月HSBC製造業PMIが50.1と市場予想(48.2)を大きく上回り豪ドル/円が上昇したこと、ユーロ圏8月製造業PMIが51.3、サービス業PMIが51.0と、双方市場予想(50.7、50.2)を上回る結果になったことを受けて欧州株が上昇したことなどを背景に、大きく円安が進んだ。
⑦	23日、アトランタ連銀のロックハート総裁が「9月の資産買い入れ縮小を排除しない」と発言した事を受け、ドル/円は99.14円まで上昇。しかし、米7月新築住宅販売件数が39.4万件と予想(48.7万件)を大幅に下回り、前月分も下方修正(49.7万件→45.5万件)されると、98.39円まで失速した。
⑧	27日、前日のNY市場で米国がシリアに軍事介入する可能性が高まったことを受けてNYダウ平均が下げた流れを引き継ぎ、アジア・欧州・米国で株安となる中、円は全面的に上昇。ドル/円は96.99円まで値を下げた。

USD / JPY

今月のポイント

8月のドル/円相場は95.80～99.93円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.3%と、わずかに上昇（ドル高・円安）した。

月初、米7月雇用統計の弱い結果を受けて、米国が9月連邦公開市場委員会（FOMC）で量的緩和（QE）の縮小をスタートするとの観測が後退。市場参加者が夏季休暇入りして減少する中で株安が進んだことを受けて円買い・ドル売りが強まった。その後、日本の法人税率引き下げの思惑や米国の9月QE縮小開始観測が再度強まったことなどを背景に反発するも、99円台に乗せると上値が重い状態が続き、下旬に入るとシリア情勢の緊迫化が波乱要因となった。

今月については、ドル/円が上昇・下落どちらにも振られる可能性がある材料が多く、神経質な展開となりそうだ。最も注目されるのは17-18日に開催されるFOMCで、大方の見方通りQE縮小の開始を決定するかどうかだ。8月29日に発表された米4-6月期国内総生産（GDP）・改定値は前期比年率+2.5%と速報値（+1.7%）から大幅に上方修正され、9月の縮小開始観測は高まった格好になっているが、それでも米8月雇用統計や、その後のFOMC前の重要指標の様子次第で再びムードが転調する可能性は否定できない。また、シリアについては、米国の軍事介入が議会承認後になる見通しで、9月中旬以降になるとの見方もある。8月下旬の緊張感は9月初めの時点では緩んでしまっているが、再び軍事介入への警戒感が高まればドル売りが強まる可能性がある。また、やはり中旬以降、オバマ米大統領は米連邦準備制度理事会（FRB）の次期議長候補を発表する見通しだ。タカ派と言われるサマーズ氏の名が挙げられればドル高要因に、ハト派と見られるイエレン氏が挙げられればドル安要因となると見られる。波乱要因としてこの人選の行方も要注意になる。（ジェルベズ）

（予想レンジ：94.00～102.00円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

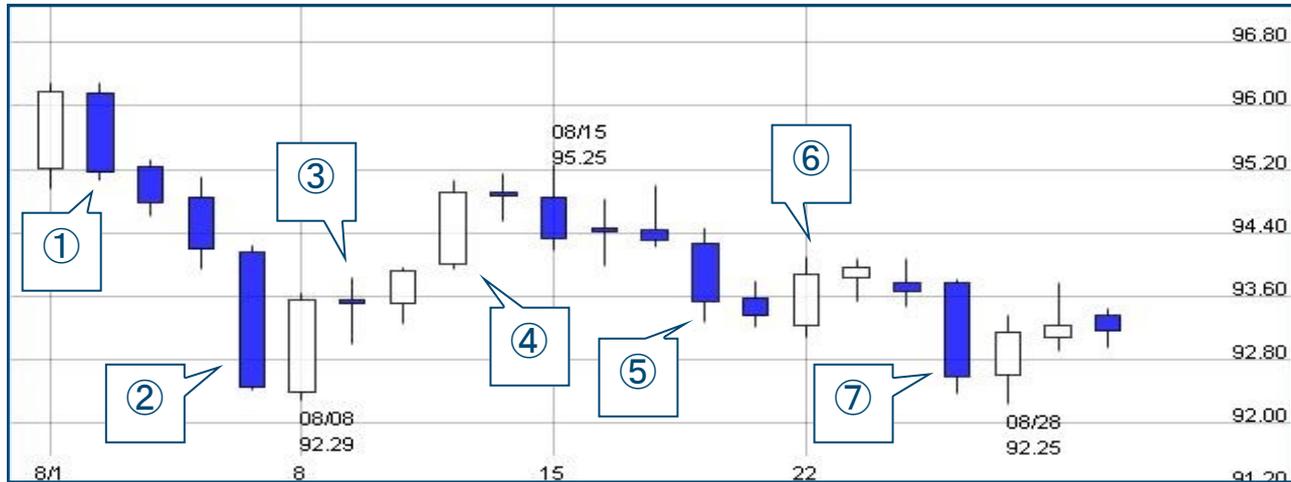
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/3(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/16(月)	9月米ニューヨーク連銀製造業景況指数
9/4(水)	7月米貿易収支		8月米鉱工業生産
	米地区連銀経済報告	9/17(火)	8月米消費者物価指数
9/5(木)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	9/18(水)	8月米住宅着工件数
	8月米ADP全国雇用者数		FOMC政策金利発表
	8月米ISM非製造業景況指数	9/19(木)	8月本邦通関ベース貿易収支
9/6(金)	G20首脳会議(5日～)		9月米フィラデルフィア連銀景況指数
	8月米雇用統計	9/24(火)	9月米リッチモンド連銀製造業指数
9/7(土)	2020年オリンピック開催地決定		9月米消費者信頼感指数
9/9(月)	第2四半期本邦GDP・二次速報	9/25(水)	8月米耐久財受注
	7月本邦経常収支・貿易収支	9/26(木)	第2四半期米GDP・確報値
9/12(木)	7月本邦機械受注	9/27(金)	8月本邦全国消費者物価指数
9/13(金)	8月米小売売上高	9/30(月)	9月米シカゴ購買部協会景況指数
	9月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	95.21円	96.30円	92.25円	93.16円



①

2日、米7月雇用統計は失業率が予想を下回った一方、非農業部門雇用者数の増加幅が予想を下回るマチマチの結果となった。この結果を受けてドル/円でドル売り・円買いが強まる一方、米ドル/カナダドルでは米ドル高・カナダドル安に振れたため、カナダ/円は大きく下落した。

②

7日、日経平均株価が500円を超える下落となったのをはじめ、欧米市場でも株安が進行すると、リスク回避の動きが強まり、93円台を割り込んだ。さらに、加6月住宅建設許可件数が前月比-10.3%と予想(-2.8%)を下回ったほか、加7月Ivey購買部協会指数が48.4と予想(57.0)を下回った事がカナダドル売りを誘い、カナダ/円は一時92.41円まで下落した。

③

9日、加7月雇用統計で、失業率が7.2%と予想(7.1%)を上回り、雇用者ネット変化が3.94万人減と予想(1.00万人増)外の減少となると、93.00円まで下落。しかし、アジア時間に発表されていた中国7月鉱工業生産が予想を上回った事を受けて原油高が進行する中で下値は限定的であり、売り一巡後は93.80円台まで値を戻した。

④

13日、日本経済新聞が1面で「安倍首相、法人税率引き下げ検討を指示 消費増税と一体」と報じた事を受けて、早朝から円売りが活発化。さらに、同報道を受けて高く始まった日経平均が後場に入り一段高となるとカナダ/円の上昇が加速した。また、米7月小売売上高の好結果を受けてドル/円が上昇した事も追い風となり、一時95円台を回復した。

⑤

20日、米量的緩和の縮小を懸念してアジア新興国で通貨安・株安が進行した事が資源国通貨の重石となった他、日経平均株価が370円を超える下落となると93.50円台まで下落。その後、黒田日銀総裁が「日銀はデフレ克服のために何でもやるスタンスである」と発言すると、円が売られ一時反発したものの、NYダウ平均が寄り付き直後に15000ドルの大台を割り込むと93.20円台まで続落した。

⑥

22日、中国とHSBC8月製造業PMIが良好な結果となった事を受けて日経平均株価が上昇。ユーロ圏8月製造業PMIも予想を上回り、欧州株の上昇が加速すると、94円台を回復した。その後、加6月小売売上高が前月比-0.6%と予想(-0.4%)を下回るとカナダドル売りが強まる場面も見られたが、米国株が堅調に推移したため下値は限られた。

⑦

27日、前日のNY市場終盤に、ケリー米国務長官が、化学兵器の使用をめぐるシリアに対する軍事介入の可能性を示唆した事を受けて、世界的に株価が下落するなどリスク回避ムードが広がる中、終日軟調に推移した。ヘーゲル米国務長官が「シリア攻撃の準備は整った」と発言した上、「西側諸国はシリア反政府派に対して数日以内に攻撃がある可能性を傳達した」と報じられた事を受けてリスク回避の動きが加速すると、92.36円まで下値を切り下げた。

CAD/JPY

今月のポイント

8月のカナダ/円相場は92.25円～96.30円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.2%の下落(カナダドル安・円高)となった。上旬は、米国の量的緩和縮小観測が高まるにつけ、主要国の株価が軟化した事や、新興国の景気失速懸念が高まった事から、資源国通貨であるカナダドルに売り圧力がかった。中旬には一時反発する様子も見られたが、下旬にはシリア政府による化学兵器使用疑惑をめぐり、米・英の軍事介入気運が高まるとリスク回避ムードが広がり、再び軟調推移となった。8月のカナダドルは、いわば「外部要因」による下落圧力にさらされた格好であり、9月についても「外部要因」に左右される展開が見込まれる。9月17日・18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、量的緩和の縮小が始まるとの観測が根強く、決定内容に注目が集まる。FOMC後の株式市場や新興国市場の動向には注意を要するだろう。シリア問題についても、英国の攻撃不参加や、オバマ米大統領が内戦への深入りを避ける方針を示している事から、軍事介入が長期化する可能性は低下したとして過度な警戒感には薄れているが、イスラム圏諸国は介入へのけん制を強めており、楽観視は禁物だろう。こうした懸念がくすぶり続ける間は、カナダドルの上値は重いと見られる。もっとも、こうしたリスク要因がある程度緩和方向に向かえば、カナダドル高・円安基調に振れる公算が大きいの事とも言えるだろう。5日-6日に行われるG20首脳会議では、新興国問題が討議される可能性が高く、新興国市場の混乱が沈静化に向かう転換点とする事が出来るか注目されよう。シリアへの軍事介入に関しては9日から始まる米議会の審議の行方が注目される。また、9月後半には、安倍首相が来年4月に予定されている消費増税の是非について最終判断を下す可能性があるとされている。9日に発表される本邦4-6月期国内総生産(GDP)や、7日に決定する2020年オリンピック開催地も増税の議論に影響を与えると見られ、「アベノミクス」に再び注目が集まる事も考えられる。(神田)

(予想レンジ:90.00～97.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/3(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/18(水)	米FOMC政策金利発表
9/4(水)	加中銀政策金利発表	9/20(金)	8月加消費者物価指数
9/5(木)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	9/24(火)	7月加小売売上高
	8月米ISM非製造業景況指数	9/27(金)	8月本邦全国消費者物価指数
9/6(金)	8月加雇用統計	9/30(月)	7月加GDP
	8月米雇用統計		
	G20首脳会議(5日～)		
9/7(土)	2020年オリンピック開催地決定		
9/8(日)	8月中国貿易収支		
9/9(月)	第2四半期本邦GDP・二次速報		
9/10(火)	8月加住宅着工件数		
9/13(金)	8月米小売売上高		
9/18(水)	8月米住宅着工件数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。